

平成31年（令和元年度）度全国学力・学習状況調査 結果概要

女川町立女川中学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成31年4月18日（木）

3 対象学年 女川中学校 第3学年生徒 50名 当日実施生徒46名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査 国語・数学・英語・英語「話すこと」
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と全国との比較

	国語	数学	英語	英語「話すこと」
宮城県	15ポイント下回っている。▼	12ポイント下回っている。▼	9ポイント下回っている。▼	
全国	14ポイント程度下回っている。▼	14ポイント程度下回っている。▼	12ポイント程度下回っている。▼	15ポイント程度下回っている。▼

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・全国的に正答率が低く難しい問題以外では無解答がなく、何とか解こうとする姿勢が見られた。
- ・「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」問いについては、全国平均を0.1ポイント上回った。

(課題)

- ・ほぼ全ての項目において正答率が全国平均、宮城県平均を下回っていた。
- ・「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」問いの正答率が著しく低かった。

②指導改善のポイント

- ・学習の目当てや到達目標については、単元ごと授業ごとに示してきたが、生徒にあまり浸透させることができていなかった。具体的にどのような力をつけ、今後どのように役立ててほしいのかを、より明確に示すようにする。
- ・グループやペアでの議論（話合い）を積極的に取り入れ、話の流れを掴んで自分の考えを述べたり、相手の意見を踏まえて自分の考えを深めたりする経験を多く積ませる。
- ・書きたい（伝えたい）事柄について、そのもととなる根拠を複数挙げてから、よりの確で効果的な根拠を選ぶ習慣をつけさせるために、二百字程度の短作文を書く活動を多く取り入れる。

(2) 数学の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・四則の計算の結果に対する問題では、全国平均と比べて0.8%ほど高い63.0%の正答率で、四則計算の仕組みや答えの符号などが理解できていると考えられる。
- ・三角形の合同条件を書く問題では、全国平均より3%ほど高い78.3%の正答率で、授業で読んだり書いたりといった反復練習の効果が表れていると考えられる。

(課題)

- ・表（反比例）から式を求める問題での正答率が21.7%と全国平均48.9%に比べてかなり低い。表から必要な情報を取り出すことができていない。
- ・図形の証明問題やヒストグラムの特徴を説明する問題といった記述式の問題での正答率が全国平均と比べて20パーセントほど低い。加えてそれらの問題での無解答率が全国平均と比べて高く、根気強く問題に取り組むことができず諦めている生徒がいる。
- ・文字から式を立てる問題での正答率が全国平均と比べて10%ほど低い。文字を扱うことに苦手意識がある生徒が多い。

②指導改善のポイント・対策等

- ・文章問題に多く取り組むことにより、問題から必要な情報を取り出す力を身に付けさせるとともに、根気強く問題に取り組む力を付けさせたい。
- ・基本的な計算問題を反復して行うことで、基礎的な力を定着させるとともに、それを一般化した文字で考えていくことにより、文字の意味や有効性に築かせていきたい。
- ・表やヒストグラムなどの問題に取り組む、傾向を読み取り、根拠を明確に説明できる力を付けさせたい。

(3) 英語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・まとまりのある英語を聞いて話の概要を理解する問題では全国や県の正答率を7ポイントほど上回っている。
- ・英文を聞いて、正確に読み取る問題では5ポイント近く上回っている。
- ・「聞くこと」に対する理解が伸びている。

(課題)

- ・「読むこと」「書くこと」では全国や県と比べて20ポイント以上下回る問題が多かった。単語の知識、語形変化のルール、英文法などの定着に課題があると考えられる。
- ・「話すこと」ではすべての項目で全国や県の正答率を下回った。

②指導改善のポイント・対策等

- ・単語・文法・重要表現などの知識量を増やすために課題テストを行ったり、書く練習を増やしたりする。
- ・習ったものを実際に使って話したり、書いたりする時間を確保する。

7 生活習慣や学習習慣に関する調査から (○：良好なもの ▲：改善が必要だと思われるもの)

〈生活習慣・学習習慣について〉

○就寝については80%、起床については90%の生徒が規則正しい習慣を身に付けており、県・全国と同程度である。

○家で計画を立てて勉強している生徒が55%以上であり、全国・県を上回っている。

▲13%程度の生徒が、「朝食をあまり食べていない・全く食べていない」と答えている。全国・県と比較すると2倍である。

▲平日の勉強時間が30分未満の生徒が30%おり、全国・県の2倍以上である。

〈規範意識・自己有用感について〉

○「人が困っている時は、進んで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、正義感・

使命感を持っている生徒が多い。

○90%近くの生徒が、ものごとを最後までやり遂げて嬉しかった経験をしている。

▲「学校の規則を守っていますか。」について、「守っている・どちらかといえば守っている」と答えた生徒が80%以上いる。しかし、「守っていない」と答えた生徒が10%近くおり、県・全国の0.6%を大きく上回っている。規範意識がやや低いと言える。

▲「自分には、よいところがあると思いますか」については60%以上が、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」については、40%以上が「どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない」と感じている。自己有用感が低いことが分かる。

▲「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「将来の夢や目標を持っている」については県・全国平均より低く、目標や達成感を持つ生徒が少ない。

▲「学校に行くのは楽しいと思いますか」について「楽しい」・「どちらかといえば、楽しい」と生徒」回答した生徒の割合が65%で、県・全国平均より低い。

〈学習に対する興味・関心等について〉

【一般】

○ICTを活用した授業への関心・意欲が高い。

▲自分たちの住む地域社会や外国のこと・人への興味が低い。

▲授業で学んだことを、他の学習に生かしていると感じている生徒が半数程度と少ない。

▲「1, 2年生の時に受けた授業で、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」ことを実感している生徒が少ない。

【各教科】

○国語の勉強は大切だと思っている生徒は約87%にのぼった。また、将来社会に出たときに役に立つと思っている生徒も約72%おり、国語の必要性を感じている。

○国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているかという質問では、70%以上の生徒が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えている。

○数学の勉強が「好き」「大切だと思う」「授業内容がよく分かる」と回答した生徒の割合は、ほぼ県・全国と同じ割合であった。

○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思うかという質問では、40%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、県・全国と同程度であった。

▲国語の勉強を大切だと認識しつつも、半数近くが国語に対して苦手意識を持っている。

▲国語の授業で学習したことを積極的に日常生活に生かそうとする生徒は半数程度と少なく、学習材の枠を超えた指導が必要である。

▲「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒が全国平均と比べて10%ほど低い30.4%と数学の考えを実生活に生かしていない。

▲英語の勉強が「好き」「大切だと思う」「授業内容がよく分かる」「社会に役立つ」と回答した生徒が県・全国に比べて少なく、英語に対する苦手意識や抵抗感が見られる。

8 今後の取組

(1) 学びの土台となる望ましい生活習慣・学習習慣の形成

①「MY SEVEN DAYSノート」の活用を通して、学習時間・睡眠時間・ゲーム（スマートフォン利用）の時間を振り返らせるとともに、翌日の授業・宿題・準備物をはじめとした予定等について見通しを持たせて自己（生活）管理能力を育てる。

②家庭学習の習慣の形成

- ・家庭学習（予習課題や復習、宿題）の取組を「自主学習ノート」に記入し、提出させる。
- ・漢字テストや作文課題を定期的実施し、短期目標達成に向けた家庭学習の定着を図る。
- ・継続してプリントで数学の基礎的な計算問題に取り組ませる。

③学習支援として、放課後の補充学習を充実させる。継続的な支援を通して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

(2) 学習指導の充実

- ① 今回の学力・学習状況調査の結果を踏まえた、前述の国語・数学・英語「指導改善のポイント」を教員間で共有し、授業を中心とした教科指導において実践していく。
- ② 毎朝の読書活動を通して、生徒の文章読解力・漢字力・集中力を高めさせる。
- ③ 校内研究の推進により、教師の教科指導力の向上・生徒の主体的な学びの育成を図る。
- ④ 漢字検定・数学検定・英語検定を積極的に活用し、生徒に主体的で多様な学習機会・実力試しの場を提供する。※ 漢字検定・数学検定・英語検定の受験料：町費による補助制度がある。

(3) 「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な定着を図る授業等の改善のために

【国語科】

- ・ 新出漢字を文章の中で使いこなす力を身に付けさせるために、ワークや自作プリントで例文を確認するとともに、短文を作る活動を継続して行う。

【数学科】

- ・ 授業の導入時に前時の授業を振り返る小テストを行ったり、小学校での既習事項を確認したりすることで、授業につながりを持たせ、知識の定着につなげる。

【英語科】

- ・ 基礎・基本の反復練習と小テストの継続実施。
- ・ 既習事項を復習しつつ新出事項を導入するというステップアップ型の指導を取り入れる。

(4) 「活用する力」の育成を図る授業の充実

【国語科】

- ・ 単元の始まりと終わりに、学習材から離れた日常生活との関わりを具体的に示し、どのような場面で知識や技能が生かされるかを示す。
- ・ ICT機器等を効果的に活用して生徒自身の作文（作品）を紹介したり、良さを共有したりする時間を設け、メモができるようなワークシートや板書の工夫をする。

【数学科】

- ・ 説明する時間を減らし、公式や解き方を覚えた後に、問題演習の時間を多く取ることでそれらを活用する力を付けていく。
- ・ 学び合いの時間（ペアやグループ学習）を取り入れ、考えを発信、または取り入れることで考えを深め、力を付けていく。

【英語科】

- ・ 学んだ表現を用いて自分の考えを表現させたり、状況を見て適切なセリフを英語で考えさせたりする活動を行う。
- ・ ALTとコミュニケーションをとることに喜びを感じられるように、仕掛けを工夫する。

(5) 女川小学校、女川向学館との連携

- ① 小学校・向学館との連携による「合同授業研究会」（年2回）の実施を通して、各校種・各教科の学習内容の系統性について理解を深め、それを意識した授業を展開する。
また、児童生徒の実態について情報交換し、指導に生かす。
- ② 向学館との連携による「夏季・冬季休業学習会」の実施により、個に応じた学習支援ができるようにし、生徒の主体的な学びの場を充実させる。